

平成30年第4回
組合議会定例会議事録

招集日 平成30年11月19日

招集場所 クリーンプラザふじみ大会議室

ふじみ衛生組合議会

平成30年第4回 組合議会定例会議事録

招集日 平成30年11月19日(月)

招集場所 クリーンプラザふじみ大会議室

1. 出席議員(10名)

1番 丸田 絵美

2番 鈴木 宗貴

3番 橘 正俊

4番 渡辺 進二郎

5番 川畑 英樹

6番 粕谷 稔

7番 高谷 真一朗

8番 嶋崎 英治

9番 吉野 和之

10番 森 徹

2. 欠席議員(0名)

3. 出席説明員

管 理 者	清 原 慶 子	参 与	内 田 治
参 与	伊 藤 栄 敏	監 査 委 員	奈 良 正 弘
総 務 主 幹	大 野 憲 一	総 務 主 幹	岩 本 宏 樹
清 掃 主 幹	岩 崎 好 高	清 掃 主 幹	丸 山 義 治
人 事 主 幹	近 藤 さやか	文 書 主 幹	一 條 義 治
財 務 主 幹	石 坂 和 也	契 約 ・ 検 査 主 幹	富 永 幹 雄
会 計 管 理 者 ・ 出 納 主 幹	大 朝 撰 子	監 事 務 局 長	荒 川 浩 一
事 務 局 長	荻 原 正 樹	事 務 局 次 長	上 野 洋 樹
総 務 課 長	宮 崎 治	施 設 課 長	岡 田 賢 一 郎
施 設 課 長 補 佐	星 野 巖 雄		

午前9時58分開会

○議長（鈴木宗貴君） それでは、おそろいですので始めさせていただきます。

○議長（鈴木宗貴君） 皆様、おはようございます。これより平成30年第4回ふじみ衛生組合議会定例会を開会いたします。

なお、本日、長友副管理者から、体調不良により欠席届が提出されておりますので、ご了承を願います。

直ちに、本日の会議を開きます。

日程第1 会期の決定

○議長（鈴木宗貴君） 日程第1、会期の決定を議題といたします。

お諮りいたします。会期は本日1日といたします。これにご異議ありませんか。

（「異議なし」の声あり）

○議長（鈴木宗貴君） ご異議なしと認めます。よって、会期は本日1日とすることに決定いたしました。

日程第2 会議録署名議員の指名

○議長（鈴木宗貴君） 続きまして、日程第2、会議録署名議員の指名を行います。

会議録署名議員は、会議規則第36条の規定により、4番渡辺進二郎議員、及び10番森徹議員を指名いたします。

日程第3 管理者報告

○議長（鈴木宗貴君） 日程第3、管理者報告に入ります。

それでは、清原管理者、お願いいたします。

清原管理者。

○管理者（清原慶子君） 皆様、おはようございます。

9月以降、長雨とともに、台風が2週連続で襲来するなど、天候不順な日々が続いていましたが、朝夕の冷え込みに秋の深まり、冬の訪れを感じる今日このごろでございます。

本日は、両市の定例議会を控えまして、何かとご多用の時期でございますが、議員の皆様におかれましては、先月末の行政視察に続きまして、平成30年第4回ふじみ衛生組合

議会定例会をお願いいたしまして恐縮に存じます。

それでは、早速、報告に入らせていただきます。本日も報告申し上げる事項は10件でございます。

第1件目は、ごみ処理実績についてでございます。

なお、重量につきましては、小数点以下を四捨五入してご報告させていただきますので、ご了承をお願いいたします。

初めに、資料1をごらんください。クリーンプラザふじみの平成30年7月から9月までの処理実績でございます。この3カ月間の総搬入量は1万7,991トンでございます。前年度と比較いたしますと245トン、1.3%の減となっております。

その内訳といたしましては、三鷹市が7,101トンで、構成比45.9%、前年度比126トン、1.7%の減、調布市が8,377トンで、構成比54.1%、前年度比144トン、1.7%の減となっております。また、リサイクルセンターにおける処理後の可燃性残渣の搬入につきましては1,781トンで、前年度比1トン、0.1%の増となっております。そのほか、小金井市の広域支援では732トンを受け入れました。

一方、この3カ月間で、2万4,203トンを焼却処理し、熱回収による発電では、電力事業者に8,572メガワットアワーを1億3,507万円で売却いたしました。また、処理に伴う焼却灰等2,589トンにつきまして、エコセメント化施設等に搬出いたしました。

続きまして、資料2をごらんください。リサイクルセンターの平成30年7月から9月までの処理実績でございます。この3カ月間の総搬入量は4,576トンでございます。前年度と比較いたしますと53トン、1.2%の増となっております。

その内訳といたしましては、三鷹市が2,244トンで、構成比49.1%、前年度比4トン、0.2%の減、調布市が2,331トンで、構成比50.9%、前年度比58トン、2.5%の増となっております。

ご報告の第2件目は、視察・見学の状況についてでございます。

資料4をごらんください。クリーンプラザふじみの平成30年4月から9月までの視察・見学者数でございます。この半年間の見学者数は、64団体2,603人で、前年度と比べまして12団体、460人の減となりました。学校の社会科見学が6校422人の減となっておりますが、今年は10月以降に訪れる学校が多いことによるもので、年間では例年どおりの見学者数を見込んでいます。また、海外からの視察につきましては、表の欄

外1)にありますように、アジア諸国を中心に10カ国から行政関係職員等が来訪されました。こうした視察見学のほか、学校の夏休み期間に特別展示を行うとともに、親子見学会を5回実施いたしました。大人、子ども合わせて122人の皆様が参加されました。

ご報告の第3件目は、地元協議会等についてでございます。

地元協議会につきましては、10月22日に第56回の会議を開催いたしました。施設の運転実績及びリサイクルセンターの更新検討状況等を報告し、意見交換等を行いました。

なお、次回会議は、平成31年2月12日に開催を予定しています。

また、安全衛生専門委員会につきましては、10月16日に第19回の会議を開催いたしました。施設の運転実績等を報告し、意見交換を行うとともに、平成31年度の会議スケジュール及び委員会の進め方を確認していただきました。

次回の会議は、平成31年4月22日に開催を予定しています。

ご報告の第4件目は、ふじみまつりについてでございます。

資料5をごらんください。第3回定例会でご報告申し上げましたとおり、来たる11月25日、午前10時から第6回ふじみまつりを開催いたします。今年は宇宙航空研究開発機構(JAXA)、調布消防署や調布警察署等に加え、新たに三鷹市消費者活動センター運営協議会のご協力をいただきます。

なお、今回も三鷹市民駅伝大会と同日開催となりますので、2つの事業に参加される皆様の安全に配慮して、無事故の運営を図ってまいります。

議員の皆様におかれましては、お忙しいこととは存じますが、ご来場いただければ幸いです。

ご報告の第5件目は、クリーンプラザふじみの施設運営モニタリングについてでございます。

資料6をごらんください。平成29年度分のクリーンプラザふじみの施設運営モニタリングにつきまして、決算の調製に合わせて実施いたしましたので、ご報告を申し上げます。

10月17日に組合事務局によるモニタリング第1次評価を、10月24日に三鷹市、調布市の清掃担当課長による第2次評価をそれぞれ実施いたしました。今回のモニタリングにつきましては、要求水準書に定められた運営における順守事項等を評価項目とするとともに、昨年度、是正・改善の指示を行った事項を評価項目に加えまして、全体で33項目の評価を実施したものでございます。

評価の結果につきましては、適切であるとの評価の○が32項目、一部水準を満たして

いない△が1項目となりました。○が8割を超えておりますので、平成29年度の評価はAとしたところでございます。

また、資料裏面にございますとおり、昨年度に引き続き、本年度も是正・改善の指示を行った搬入物の自主的な検査及びホームページでの事例公開につきましては、搬入物の自主的な検査は実施されていましたが、ホームページでの事例公開が不十分であったため、10月30日に事業者に対して口頭で改善を要請いたしました。その上で、是正改善書の提出を求めているところでございます。

なお、事業運営に最も重要な施設の運転につきましては、法令等にのっとり適正に行われていることが確認できています。今後とも、モニタリング評価を通じて事業者とのコミュニケーションを密にし、環境と安全に徹底的に配慮した施設運営の維持向上に努めてまいります。

ご報告の第6件目は、小金井市のごみ処理広域支援についてでございます。

資料7をごらんください。平成29年4月から、小金井市のごみ処理広域支援を受け入れておりますが、引き続き平成31年度の受け入れにつきましても、小金井市長から要請がありました。これまで不適物の搬入や交通問題の発生もなく、地元協議会のご理解もいただいておりますので、受け入れることといたします。

なお、受け入れ量につきましては、今後、小金井市と調整してまいります。浅川清流環境組合の新施設の試運転が平成31年度後半から予定されていますので、平成30年度よりも900トン程度下回る見込みでございます。

ご報告の第7件目は、水銀含有製品回収キャンペーンについてでございます。

資料8をごらんください。水銀対策につきましては、これまでも組織市である三鷹市、調布市と連携し、分別の徹底や搬入物検査の実施など、水際での防止策の充実強化を図ってきたところでございます。このたび、さらなる対策として、水銀含有製品回収キャンペーンを実施することといたしました。これは、三鷹市及び調布市の薬剤師会のご協力を得まして、いわゆる大掃除の機会が多いと考えられる12月1日から28日まで、三鷹市、調布市内の薬局、薬店及び公共施設等に回収ボックスを設置いたしまして、家庭で要らなくなった体温計、温度計、血圧計などを集中的かつ効率的に回収し、ごみの適正処理を図るものでございます。

東京都の地域環境力活性化事業補助金を活用し、実施いたします。

報告の第8件目は、リサイクルセンターの更新検討の状況についてでございます。

リサイクルセンターの更新検討につきましては、三鷹市、調布市及び組合職員で構成するリサイクルセンター更新検討ワーキングチームで検討を行っているところでございます。現在、コンサルタントを活用し、最新の人口予測及びごみ排出量を用いまして、将来のごみ処理量を算出するとともに、第1回定例会でご報告申し上げました現時点で集約できる3つの検討案につきましては、課題の整理と解決策の検討を行っているところでございます。

また、最大の課題でございます、工事期間中の処理方法、処理先及び処理費用につきましては、近隣の自治体のみならず、民間の処理施設についても調査を行っているところでございます。今後、これらの調査、検討事項をまとめまして、比較検討を行い、年度内に方向性の確認ができれば幸いと考えておりますが、今申し上げましたように、解決すべき課題が多々ございます。したがって、拙速に結論を求めることなく、議会や市民の皆様のご意見を伺いながら、慎重に検討を進めてまいりたいと考えておりますので、よろしくお願い申し上げます。

ご報告の第9件目は、リチウムイオン電池の混入防止についてでございます。

近年、電子機器などで、小型充電式電池の使用が増えています。このような状況から、容器包装リサイクル法の再商品化事業者の工場において、リチウムイオン電池が原因と思われる発火事故が全国的に増加しており、新日鐵住金、君津の製鉄所で、本年9月21日に発生した発火事故は、ふじみ衛生組合のプラスチックこん包品が原因であるとの連絡が、10月11日に日本容器包装リサイクル協会からありました。幸いにも火災等の大事には至りませんでした。施設だけでなく、啓発や収集方法を含め、再発防止に向けて検討を行ってほしいとの要望をいただきました。これを受けまして、現在、ふじみ衛生組合と組織市とで再発防止に向けた改善策について協議を行っているところでございます。

市民の皆様への分別の周知徹底、資料9にもございますように、回収拠点の設置などで収集運搬を工夫すること、また、組合での破袋機の増設など、ハード面での改善、作業員への注意喚起によるソフト面の向上など、幅広く対応していきたいと考えているところでございます。

今後、協議結果を取りまとめまして、日本容器包装リサイクル協会に報告することといたします。

ご報告の第10件目は、台風24号による被害状況についてでございます。

9月30日夜半から10月1日未明にかけて台風24号が関東付近を通過し、多摩地域に多くの被害を及ぼしました。この台風の影響で、ふじみ衛生組合におきましても、三鷹

市役所との境にあるヒマラヤスギ、高さ20メートル、太さ約50センチ、1本が倒木いたしました。幸いにも倒れた場所が三鷹市役所立体駐車場の工事区域であったため、人的、物的被害はございませんでした。クリーンプラザふじみやリサイクルセンターの委託業者の皆さんにもご協力をいただき、10月1日、当日中に、枝を払い落とすとともに幹を解体し、組合敷地内に運び込みました。また、翌日には、枝の折れそうな木の剪定を造園業者に依頼しました。その際、造園業者から、木と木の間隔が狭く、自重に耐えられるだけの根が張っていない可能性がある木があるとの報告がありました。組合敷地内には同様のヒマラヤスギが10本ほどございます。今後、専門家の意見を傾聴しながら、樹木の適切な管理に向け、検討を行ってまいります。

私からの報告は以上でございます。

なお、ごみ処理実績につきまして、事務局長から補足説明をいたさせますので、どうぞよろしくお願いいたします。

○議長（鈴木宗貴君） 荻原事務局長。

○事務局長（荻原正樹君） おはようございます。私からは、管理者報告のうち、ごみ処理実績について補足をさせていただきます。

資料1をごらんください。クリーンプラザふじみの平成30年7月から9月までの3か月間の状況でございます。

搬入実績につきましては、前年同期と比較いたしまして、総量で1.3%の減少となりました。その内訳ですが、1の委託収集、いわゆる家庭系ごみにつきましては、三鷹市、調布市とも微減となっています。逆に、3の持ち込みに区分される事業系ごみにつきましては、三鷹市、調布市とも微増となっています。調布市の事業系ごみの増加は、クリーンプラザふじみが稼働して以降、この傾向に変化はございません。廃棄物処理手数料の額の改定及び調布市の事業者を持ち込みが浸透したことなどが要因と考えております。

また、三鷹市の事業系ごみの増加の要因の一つには、従来は保護者が持ち帰っていたおむつを、保育園が回収し、処理する方式に変更したことがあると推測しております。

続きまして、資料2をごらんください。リサイクルセンターの平成30年7月から9月までの3か月間の状況でございます。

搬入実績につきましては、全体ではほぼ横ばいとなっておりますが、猛暑の影響もあり、両市ともペットボトルが増加いたしました。

次に、2の搬出実績でございます。搬出実績につきましては、まず、左側の有償・無償

の資源物から申し上げます。総量は前年度と比べ104トン、4.5%の増となっています。この主な要因は、14番の容リ・プラスチックが78トンの増、15番の容リ・ペットボトルが33トンの増になったことによるものでございます。その他の増減につきましては、搬出時期等によるものと捉えております。

次に、右側の逆有償の資源物等搬出の欄をごらんください。前期同様、水銀を含む有害廃棄物及び廃消火器などの処理困難物につきましては、逆有償での処分となっています。また、プラスチック類を含む可燃性残渣につきましては、クリーンプラザふじみにおいて全て焼却処理し、熱回収いたしました。

続きまして、有価物品等の価格の推移でございます。

資料3をごらんください。平成30年第3回定例会後の状況について、ご説明申し上げます。10月1日以降の資源物の売却に係る競争入札を、9月11日、見積もり合わせを18日に実施いたしました。その結果、4番の特A鉄、これはスチール缶でございます、及び5番のA鉄につきましては単価が300円上昇いたしました。6番のB鉄、これは粗大ごみの鉄でございます、につきましては7,150円、率にして約50%の大幅な下落となりました。また、アルミ類につきましては10%程度の下落となりました。さらに、9番の小型家電製品につきましては900円、率にして90%の大幅な下落となりました。B鉄及び小型家電製品の単価が大幅に下落した原因でございますが、これは中国が廃プラスチックの輸入を禁止したことによるもので、粗大ごみや小型家電製品など、複合素材でできているものについては、そのままでは輸出することができず、細かく破碎し、有価物以外のものは廃棄物として適正に処理をしなければならなくなったことによるものでございます。中国においては、本年12月末をもって雑品スクラップ全面輸入禁止の方針を打ち出しており、今後、ますます売却単価の下落が懸念されます。先行き不透明な状況ではございますが、今後も市況を見ながら適切かつ有利な価格で売却できるよう努めてまいります。

私からの報告は以上でございます。

○議長（鈴木宗貴君） 管理者からの報告は以上でございます。

ただいまの管理者の報告につきまして、質疑のある方は挙手をお願いいたします。

高谷議員。

○7番（高谷真一郎君） おはようございます。

今ご報告いただきましたことに関して、水銀回収キャンペーンですけれども、12月

1日から28日までということで、これはほんとうに市民の方々には徹底してご周知をしていただきたいと思うんですけども、この周知のあり方というのは、どういった方法で取り組むのかというところを、もうちょっと具体的に教えていただきたいと思います。

○議長（鈴木宗貴君） 荻原事務局長。

○事務局長（荻原正樹君） 周知のあり方でございますけれども、ふじみ衛生組合、それから三鷹市、調布市のホームページに掲載するとともに、それぞれの広報にも掲載いたしまして周知徹底を行っていきたいというふうに考えているところでございます。

また、これに先立ちまして、ふじみまつりでも回収を行いますので、「広報ふじみ衛生組合」という広報紙のふじみまつりのページの裏になりますけれども、そこでもこの啓発について掲載しているところでございます。

○議長（鈴木宗貴君） 高谷議員。

○7番（高谷真一郎君） ありがとうございます。

いろいろと広報をするということは大事だと思うんですけども、もうちょっと能動的にできないものかなと。例えば住民協議会さんですとか、そうしたところにもしっかりと周知をする中で、一人一人がしっかりと、こういうキャンペーンがあるということ、水銀がごみの中に混入することの危険性というものを認識してもらいたい機会だと思いますので、何かもうちょっと手だてがないものかと思うんですが、いかがでしょうか。

○議長（鈴木宗貴君） 清原管理者。

○管理者（清原慶子君） ご指摘のとおりでございます。私たち、何度か水銀についての自主規制値を超える経験をしており、やむを得ず炉をとめるという経験もしております。

三鷹市の場合ですと、ごみ減量等推進員の皆様も、そのことについて大変懸念をいらっしゃいますし、調布市のそうした活動をされている方も同様でございます。しかも地元協議会の皆様は両市で構成されており、やはりこの問題は大変重く受けとめていらっしゃいます。ですから、今回も、一方で水銀等の取り扱いのご経験のある薬剤師会の皆様にご理解をいただいて、お店でお声をかけながら回収していただくということとともに、コミュニティ・センター等の公共施設でも回収する中において、住民協議会の方はもちろんのこと、ごみ減量等推進員の皆様にも、口コミでこのことを知らせていただくことが、ホームページや広報に加えて、より有効と考えて進めたいところです。

なお、先ほど事務局長も答弁いたしました。12月1日より前の11月25日の開催

ではありますが、ふじみまつりのときに回収ボックスを置いて、これが12月1日からは両市で展開しますということに参加者の皆様にPRし、参加された方からもPRしていただくようにと、このように努めたいと考えております。

○議長（鈴木宗貴君） 高谷議員。

○7番（高谷真一朗君） ありがとうございます。

水銀とか、体温計とか、そういうのをどこに捨てたらいいのかわからない人もいらっしゃると思いますので、この機会を捉えて徹底していただきたいというふうに思います。ありがとうございます。

それと、もう一つ、もうちょっと詳しくご説明していただきたい件があるんですけども、資料9の件でございます。小型充電式電池のリサイクルのご案内ということで、火災があったのが、ふじみのごみが原因だということで、非常にショッキングでございます。それをもとにして、各自治体、調布、三鷹でしっかりとこれからやっていこうということですけども、具体的にもう少し、市民のごみの出し方にどのような変化があるのかとか、さらに周知をしていかなければいけない部分だとかということがあったら、ちょっとお示しいただきたいです。

○議長（鈴木宗貴君） 荻原事務局長。

○事務局長（荻原正樹君） まず、こういった小型充電式の電池につきましては、本来、プラスチックには入れてはいけないものではございます。ただ、周りがプラスチック製品でできていますと、どうしても市民の方が勘違いをしてプラスチックに入れてしまう可能性、それから、やはり周りがプラスチックでできていますので、磁石に吸いつかないということで、今回、プラスチックのべール品の中に小型充電式電池が入ってしまいまして、それを解体して選別するラインの上で発火があったというふうに聞いております。

したがって、水銀同様ですが、まずPRをして分別の徹底を図っていくということが重要でございますし、今回、資料9をつけさせていただきましたのは、実は今まで小型充電式電池というのは産業廃棄物扱いだったんですが、この10月1日から一般廃棄物としても取り扱えるようになりました。したがって、こういった拠点を公共施設等に置きますと、電池工業会が自主的に無料でとりに来ていただけるというようなことも可能となりましたので、収集方法につきましては、こういったものも一つヒントになるのかなと思っておりますし、また、この後、両市にリサイクルカレンダーを発行する時期が参りますので、それまでにどんなものが可能なのか、具体的に検討して、またリサイクルカレン

ダ一等にも載せてPRしていきたいというふうに考えているところでございます。

○議長（鈴木宗貴君） 高谷議員。

○7番（高谷真一朗君） ありがとうございます。

産業廃棄物から一般廃棄物に変わるということは、多分大きな変更なのかなと思います。それによって、市民の方々も新しい方式になれるまでに、ほんとうに周知をしていかなければいけないというふうに考えます。これも、徹底してというのは、広報ですとか、それぐらいしかできないのかもしれませんが、この機を捉えて、そうした事故が二度と起こらないように取り組んでいただきたいと思います。

終わります。

○議長（鈴木宗貴君） 丸田議員。

○1番（丸田絵美君） おはようございます。ご説明ありがとうございます。

幾つかあるんですけども、まず、資料4の視察・見学者数のところですけども、先ほどのご説明では、6校422名、子どもが少ないんですけども、これからの学校があるということで、減ですよという話がありました。私がお伺いしたいのは、個人見学のところなんです、個人見学、括弧の中は夏休み親子見学会122名、大体平均すると1回20名前後なのかなというふうに思っていますけれども、もうちょっと大勢、ほんとうは集まっていただけなのかなと思います。

以前より、親子というところで、高学年は親がいなくても大丈夫じゃないかという話もさせていただいているんですけども、現状としては、市報を見させていただいても、親子、しかも親は子ども2人までということで限定をされています。

先ほどの高谷議員の話もそうなんですけれども、プラスチックの出し方とかというところにも、啓発活動というのは非常に重要だと思います。親子で、親が来られないところの子どもは、夏休み、もっと見学して、学習してもらいたいと思いますし、また、親というよりは、もっと高齢になって、昔は親だった人とか、親でもなかった人とか、結構大人の工場見学というのも今ははやっています。行くと、結構楽しいものですので、そういった意味で、市民啓発という部分は非常に重要ではないかなというふうに考えます。ぜひ、見学会、来てみて、これが実際なんだなというのを肌で感じてもらうということも非常に重要だと思いますので、個人見学、去年よりも、今のところ100人減っているんですけども、減にしないでいただいて、市民も増えていることですし、ぜひこのところは力を入れていただいて、見ていただき、遊んでいただき、理解をしてもらうという活動が重要

ではないかなというふうに考えますが、いかがでしょうか。

○議長（鈴木宗貴君） 清原管理者。

○管理者（清原慶子君） ご指摘のとおりでございます。理事者協議でもこのことを共有して、どのように、より一層の見学者数を増やすのみならず、ごみ問題についての関心を高めていただくかということで、これは実はふじみ衛生組合だけの努力では、その目的は達成することができないなと思っています。やはり三鷹市、調布市両市が、環境学習の成人向けの取り組みとして企画していくということも重要だと思っています。

実際には、町会自治会や住民協議会等で、積極的にごみ問題の取り組みをしていらっしゃる所がありますが、逆に日の出町に行ってしまうたりして、足元のふじみ衛生組合の見学が希薄になっているということもございますので、両市の環境問題を扱っている部が、ご指摘のようなことも踏まえて、より一層、成人向けの見学機会をコーディネートするとか、子どもたちについては、授業の中で受けることができる学年だけではなくて、他の学年についてどのような啓発ができるのか、これは教育委員会と相談をしながら、来年度に向けて、参加者の拡充、増大に向けて、両市の連携、そしてふじみ衛生組合の三者との連携を強めていくべきだと私も認識をしております。

○議長（鈴木宗貴君） 丸田議員。

○1番（丸田絵美君） ご認識をいただいているということで、受けとめました。

環境学習、先ほど日の出のほうに行かれるということなんですけれども、日の出のほうでは、多分、役所から無料のバスを30分に1本出していて、それで、この日、見学に来ませんかということをやっているようなので、例えば駅のほうからとか、調布は役所あたりから見学会みたいなのを、ちょっと日程をつくっていただいて、無料バスを出すとか、そうやって、ちょっと来にくい市民からすれば、三鷹と調布のはざまでするので、ちょっと関心が薄いところではあるのかなと思いますので、ぜひ駅の近辺から出すとかというサービスもやっていただいて、それをやってみるというのも、また一つ重要なのではないかなというふうに考えますので、ぜひともよろしくお願いいたします。

今年も視察をさせていただいて、姫路とか、津山とか行かせていただいたんですけども、見学に来るのが大前提で、子どもたちの啓発というのが一番賢い消費者をつくるんだということで、フードロスの問題とか、いろいろ考える展示とか、参加してクイズとか、とても楽しい趣向を凝らしているの、ぜひふじみさんのほうも頑張っていただきたいなと思いますので、これは要望です。よろしくお願いいたします。

○議長（鈴木宗貴君） よろしいですか。

○1番（丸田絵美君） はい。

○議長（鈴木宗貴君） 川畑議員。

○5番（川畑英樹君） 今、お二人から出た啓発、いろいろございまして、私も、水銀回収キャンペーンのことですけれども、ご努力いただいているのはほんとうに感謝申し上げる次第でございますけれども、とはいっても、たまに出るわけですよね。それというのは、このビラを見せていただいて、どうして水銀がだめなのかという根本が1行しか書いていないんですよ。一番下のほうに、人の健康に重大な影響をおよぼすおそれがあります、有害ごみで出してくださいと。

私、熊本出身ですので、熊本では水俣病というのがありまして、非常に怖いというイメージ、ちゃんとあるんですけれども、大分時間が経過しています。

水銀というのは危険だよ、危ないよというアピールが、何かこれを見たとき、水銀、回収してくださいというところがあって、どうしてだめなのというところを訴えていないんじゃないかなという気がするわけですね。ですから、ご努力いただいているのは感謝申し上げますが、今、大分、世の中、いろいろ発展してきたんですが、水銀がだめだというところが、基本的にもどうなんだろうなというところがあるので、その改善のことはどうなんでしょうか。

○議長（鈴木宗貴君） 清原管理者。

○管理者（清原慶子君） 極めて重要なご指摘でして、なぜ水銀を回収するのかというところ、何か水銀が「有効な」資源だから、ふじみ衛生組合が代表して「有効な」資源を集めているかのような印象が、確かにこのチラシにはあるかもしれません。私も改めて、なぜ水銀を公共団体、自治体が意識して回収するのかというアピールの根拠が希薄でしたので、今後の広報につきましては、広報紙においても、あるいはホームページにおいても、あるいはごみアプリにおいても、今ご指摘の水俣病を代表とする人体、環境に与える影響が極めて深刻なものであるので、だからこそ水銀を回収するのだという告知の優先順位を、本日から改めて両市徹底してまいります。

確かに人体に危ない、だから水銀を徹底的に回収しますというような思いがなければいけませんね。水銀が泣いているんじゃないで、人間が泣いているにしまじやいけなかったなど、今、ご指摘いただいて、管理者は大いに反省しましたし、三鷹市長としても反省しましたので、調布市長とも意思を確認して、告知の優先順位を改めて、だからこそ徹底的

に回収しますというふうにさせていただきます。

11月25日のふじみまつりは、そういう意味で、まさにこの場に来ていただいて、おまつりだから、何となく行ってみたいわという方も含めて、多くの方に来ていただくチャンスですので、先ほど来、ご指摘の水銀についてのみならず、全体としてのごみ問題が与える地球環境、地域環境へのマイナスを払拭するためにも、このふじみまつりがあり、その中で、水銀回収のスタートを切るといような構成で、今から事務局も、両市もしっかりと取り組んでまいります。

ありがとうございました。

○議長（鈴木宗貴君） 川畑議員。

○5番（川畑英樹君） ぜひそのような視点でお願いしたいと思います。

○議長（鈴木宗貴君） ほかにございますか。

嶋崎議員。

○8番（嶋崎英治君） 資料6に関連してお尋ねしたいと思います。

△の評価をつけた問題です。前年度は×で、△まで上がったということなのですが、ホームページ等を進めているということですのでけれども、評価のところの運営マニュアルというんですか、2-1-3というふうになっているんですが、具体的にはどういうことなのかということが1点と、不適切なものがプラットホーム日誌に記載されていたという、不適物の受け取りを拒否することがあったというふうになっているんです。これは両市ともにそういう状況なんでしょうか。三鷹市内のもの、調布市内のもの、搬入物で、両市ともに共通してそういうものがあったということなのか、あるいはどちらか一方だけなのか、もう少し詳細を教えてくださいと思います。

○議長（鈴木宗貴君） 荻原事務局長。

○事務局長（荻原正樹君） クリーンプラザふじみは、一般廃棄物処理施設でございますので、原則、両市のごみカレンダーに記載されているものについては受け入れますけれども、それ以外のものについては、受け入れておりません。

今回、その事業者がチェックをしたところ、どちらかの市に偏ったことではなく、両市のごみの中に異物が入っていることがあったということで、例えば可燃物の中に瓶、缶が入っているですとか、事業系の場合にはプラスチックは産業廃棄物になりますので、そもそもこちらの施設へは持ってきてはいけないわけですが、事業系のごみの中にプラスチックが入っていたというようなケースがございました。そういったものにつきまして、

民間事業者が袋をあけて確認して、分別が不十分なものについては搬入業者にお持ち帰りいただくというようなことをやっております。それについて、民間事業者のホームページがありますので、本来掲載をして、こういった事例があったので注意してくださいとPRするという約束になっていたんですが、その部分が不十分でございましたということで、今、民間事業者のホームページの改善を図っていただいているところでございます。

以上でございます。

○議長（鈴木宗貴君） 嶋崎議員。

○8番（嶋崎英治君） そうしますと、その問題がクリアされると、限りなく〇に近づくというふうに理解してよろしいでしょうか。

○議長（鈴木宗貴君） 荻原事務局長。

○事務局長（荻原正樹君） ホームページに掲載していただいて、PRに努めていただければ、〇に変わるというふうに認識しております。

○議長（鈴木宗貴君） 嶋崎議員。

○8番（嶋崎英治君） 先ほどリチウムから発火したと。私もそういうふうになるということを知らなかったものですから、この問題についても、これと同じように、わかりやすくPRすることが必要かなと。びっくりしたんですよ。選別しているラインのところで発火したというふうに説明があったんですけども、どうしてそういうふうになるのかという、私たちも、その仕組みというんですかね、それを理解すると、人々に働きかけて、こうなるんで、危ないからちゃんと出してねと。今度、メーカーが回収するような方向性が出てきたということなんですけれども、その仕組みについて、ちょっとご説明していただきたいです。

○議長（鈴木宗貴君） 荻原事務局長。

○事務局長（荻原正樹君） プラスチック類につきましては、ふじみ衛生組合で、まず袋を破きまして、リサイクルできるプラスチック、それから、できないものと分けているわけですけども、リサイクルできるプラスチックにつきましては、そのままではかさばりますから、ひもがけをしまして、圧縮こん包して、そして再商品化事業者のほうに引き渡しています。

再商品化事業者は、ふじみ衛生組合のプラスチックをリサイクルしなければいけませんので、ひもを解く、そして、袋が破れていないものがあれば、そこでもう一回、破くわけですね。ということで、袋を破く破袋機にかけるんです。そのときに、こういった発火す

るものがありますと、火花が飛び散りまして、それがもとで、その段階で発火いたします。それがおりてきて、ベルトコンベヤの上に流れてきますので、その時点で発火がわかったということでございます。そういったことがあったというふうに、再商品化事業者からは連絡を受けたところでございます。ただ、再商品化事業者のベルトコンベヤには温度センサーがついていて、自動的に消火器が作動するようになっていたので火事には至らなかったというふうに聞いているところでございます。

○議長（鈴木宗貴君） 嶋崎議員、よろしいでしょうか。

○8番（嶋崎英治君） はい。

○議長（鈴木宗貴君） ほかにございますか。よろしいでしょうか。

以上で質疑を打ち切ります。

以上10件は、報告のとおりご了承をお願いしたいと思います。これにご異議ありませんか。

（「異議なし」の声あり）

○議長（鈴木宗貴君） ご異議なしと認め、管理者報告のご了承をお願いいたします。

日程第4 議案第5号 平成29年度ふじみ衛生組合歳入歳出決算
の認定について

○議長（鈴木宗貴君） 日程第4、議案第5号、平成29年度ふじみ衛生組合歳入歳出決算の認定についてを議題といたします。

事務局に議案の朗読をさせます。

上野事務局次長。

（事務局朗読）

○議長（鈴木宗貴君） 朗読は終わりました。

続いて、管理者から、提案理由の説明を求めます。

清原管理者。

○管理者（清原慶子君） 議案第5号、平成29年度ふじみ衛生組合歳入歳出決算の認定につきまして、提案理由の説明を申し上げます。

監査委員の審査が終了いたしましたので、その審査意見を添えまして、議会の認定をお願いするため、提案するものでございます。

それでは、決算の概要につきまして説明をさせていただきます。

平成29年度決算に係る予算執行実績報告書及び決算説明書の2ページをごらんください。

初めに、決算の概要につきまして説明をいたします。決算の総括についてでございますが、まず、歳入の決算額は、予算現額18億3,504万7,000円に対しまして、収入済額は19億5,693万3,963円であり、予算現額に対する収入率は106.6%でございます。

次に、歳出の決算額ですが、予算現額は、歳入と同額の18億3,504万7,000円、支出済額は17億3,274万8,504円であり、予算現額に対する執行率は94.4%でございます。

歳入歳出差引残額は2億2,418万5,459円でございます。

なお、決算年度には繰越明許費等の繰越額はございません。

実質収支額は、歳入歳出差引残額と同額の2億2,418万5,459円でございます。

決算額を前年度と比較いたしますと、歳入では7.5%の増、歳出では1.6%の増となっています。

次に、当該年度の主要な施策の成果をご報告申し上げます。

クリーンプラザふじみでは、この1年間で7万699トンの可燃ごみを焼却処理し、3万7,229メガワットアワーの電力を発電いたしました。ごみ処理量は、市民の皆様のごみ減量の継続的な取り組みにより計画量を下回りましたが、前年度と同様に全炉停止期間を設けるなど効率的な運転に努め、売電収入を確保いたしました。

また、環境学習の拠点として位置づけ、親子見学会を実施するなど積極的に啓発活動に取り組み、6,541人の方々にご見学をいただきました。中でも東南アジアを中心として22カ国の視察を受け入れ、積極的に地球環境分野での国際貢献に寄与しております。

リサイクルセンターにつきましては、容器包装リサイクル法による引き取り品質を高めるため、手選別ラインに、平成28年度に設置した小型破袋機に加え、別の手選別ラインにも、新たに小型破袋機を設置いたしました。その結果、手選別ラインの作業環境が改善されるとともに、容器包装プラスチックの品質評価では最高のAランクを獲得することができました。

啓発活動につきましては、不適物の搬入防止に向けて、三鷹市、調布市と連携して、広報誌やパネル展示等により排出ルールの徹底を図りました。

地域住民や組織市との協働により開催しているふじまつりでは、過去最高の

2,250人の皆様に来場していただくことができました。また、平成28年度に引き続き、花いっぱいプロジェクトを実施し、地域住民ボランティアと協働で花壇の維持管理に取り組みました。地域の市民の皆様との交流を深め、花にあふれ、地域に愛される施設づくりを推進しました。

次に、ごみ処理実績についてでございます。重量につきましては小数点以下を四捨五入し、整数でご報告いたします。

クリーンプラザふじみにおける可燃ごみの搬入量は7万2,117トン、前年度比3,361トン、4.9%の増となりました。その内訳は、三鷹市が2万8,243トン、前年度比167トン、0.6%の増、調布市が3万3,659トン、前年度比461トン、1.4%の増、リサイクルセンターの可燃性残渣が7,145トン、前年度比337トン、4.5%の減となりました。なお、平成29年度は広域支援により小金井市の可燃ごみの受け入れを開始し、3,070トンの可燃ごみを受け入れました。また、焼却量は7万699トンで、焼却灰等8,117トンを搬出いたしました。

リサイクルセンターにおける不燃・資源ごみ等の搬入量は1万7,946トン、前年度比209トン、1.1%の減となりました。その内訳は、三鷹市が8,967トン、前年度比195トン、2.1%の減、調布市が8,979トン、前年度比14トン、0.2%の減となりました。一方、搬出量は1万6,812トンで、前年度比397トン、2.3%の減となりました。このうち2,497トンを有償で売却し、7,978万4,597円を収入いたしました。海外市場の影響から資源市況が低迷したことにより、収入は前年度比5.1%の減となりました。また、逆有償での搬出量は、有害廃棄物等136トンとなりました。

以上、平成29年度のふじみ衛生組合歳入歳出決算を総括いたしますと、クリーンプラザふじみにおいては、稼働5年目となり、効率的で安定した運転ができたこと、リサイクルセンターについては、施設の改修等により、資源物の品質向上が図られたことなど、廃棄物を適正に処理するとともに、おおむね期待した成果が得られたものと考えているところでございます。

なお、詳細につきましては事務局より補足説明をいたします。どうぞよろしくご審議のほど、ご認定をいただきますようお願い申し上げます。

○議長（鈴木宗貴君） 荻原事務局長。

○事務局長（荻原正樹君） 議案第5号、平成29年度ふじみ衛生組合歳入歳出決算の

認定につきまして、議案に添付いたしております資料のうち、平成29年度決算に係る予算執行実績報告書及び決算説明書を中心に補足説明をさせていただきます。

資料の2ページの総括から、5ページのごみ搬入・搬出実績までにつきましては、管理者が提案理由でご説明申し上げましたので、6ページをお開きください。

3、歳出款別執行状況につきましては、後ほど歳入歳出の資料のところで詳細にご説明申し上げます。

次に、4、その他でございます。ごみ1トン当たりの処理経費、及び1人当たりの処理経費、並びに負担額を算出いたしました。平成29年度につきましては、小金井市のごみを受け入れたことから、前年度に比べ、ごみ搬入量が増加いたしました。このため、歳出決算額は微増となりましたが、ごみ1トン当たりの処理経費は2万897円で、前年度比576円、2.7%の減となりました。

一方、市民1人当たりの処理経費につきましては、総人口が0.9%の微増にとどまったため4,137円で、前年度比27円、0.7%の微増となりました。

また、平成29年度は、小金井市のごみを受け入れたこと等により、前年度に比べ、諸収入が増加いたしましたので、組織市からの分賦金が減少いたしました。このため、市民1人当たりの負担額につきましては1,598円で、前年度比150円、8.6%の減となりました。

続きまして、歳入歳出決算の総括でございます。9ページをお開きください。

歳入歳出決算総括表になります。款別の予算現額、収入及び支出額、収入率、執行率等でございます。歳入歳出決算総額、歳入歳出差引残額は、先ほど管理者からご説明申し上げたとおりでございます。

次に、10、11ページをお願いいたします。歳出における平成28年度決算との比較になります。10ページは歳出決算節別内訳表でございます。主に増減額が大きいものについてご説明申し上げます。

まず、1番から4番、いわゆる人件費に区分される節になります。平成29年度は、職員1名を非常勤特別職嘱託員から短時間再任用職員に変更したことにより、報酬が減少して、給料及び職員手当が増加いたしました。

右側、11ページ、歳出決算性質別内訳表の人件費の増減内訳も同様の事由によるものでございます。

また、左に戻っていただきまして、11の需用費につきましては、リサイクルセンター

の設備修繕料が減少したことにより、556万円余の減額となったものでございます。

13の委託料につきましては、売電金額の増に伴いまして、クリーンプラザふじみの売電収入相当額委託料も増となったことから、1,721万円余の増額となったものでございます。

右側11ページ、委託料の増も同様の事由でございます。

続きまして、15の工事請負費につきましては、前年度実施しなかった不燃ごみ系供給コンベヤ整備工事を実施したこと等によりまして539万円余の増額となったものでございます。

最後に、23の償還金利子及び割引料につきましては、平成26年度借入分の組合債元金の償還が始まったことにより、増加したものでございます。

続きまして、12ページから18ページにかけましては、決算に係る給与費明細書となっております。

12ページにつきましては、特別職でございます。非常勤特別職嘱託員1名を減じたことにより、報酬及び共済費が減額となりました。

13ページ以降は一般職でございます。非常勤特別職嘱託員を再任用職員に振り替えたほか、給与改定等によりまして給与費が増加いたしました。その内訳や制度内容等につきましては、18ページまでの各表のとおりでございます。

続きまして、19ページをお願いいたします。組合債の償還状況でございます。平成22年度から24年度までの3カ年にわたり新ごみ処理施設整備事業の財源に充てるため借入れを行ってまいりました。借入先は財政融資資金及び東京都区市町村振興基金になります。どちらも3年据え置き12年償還となっています。また、平成25年度及び26年度には、リサイクルセンターの設備更新に伴い、東京都区市町村振興基金から借入れておりまして、こちらは2年据え置き8年償還となっています。

第5表、1借入目的別のとおり、平成29年度は、リサイクルセンターにおける平成26年度起債分の元金償還が新たに始まり、総額で2億6,200万円余の元金償還となり、平成29年度末現債額は24億9,400万円余となりました。その借入先の内訳につきましては、下段の表、2借入先別のとおりでございます。

続きまして、20ページをお願いいたします。第6表につきましては、分賦金の平成29年度の均等割、処理量割という形での算出内訳表でございます。総額では、三鷹市の比率が49.4%、調布市の比率が50.6%でございました。

その下、第7表が、過去5年間の分賦金の推移でございます。先ほども申し上げましたとおり、平成29年度は、小金井市のごみを受け入れたこともあり、平成28年度に比べ、減額となりました。

右側21ページは、過去5年間の決算の推移でございます。新ごみ処理施設の建設を終えた平成25年度以降、歳入歳出決算額につきましては、それぞれ、ほぼ横ばいで推移いたしております。

続きまして、22ページをお願いいたします。第9表につきましては、ごみの搬入量の推移でございます。過去5年間にわたりまして、ごみの総搬入量は微減傾向が続いています。

その下、第10表は、有価物の売却状況表でございます。ごらんになっておわかりになりますように、平成29年度は、近年では最低の価格となりました。中国が廃プラスチックの輸入を制限するなど、海外市況が不透明なことによるものでございます。

続きまして、歳入歳出決算の詳細でございます。

24、25ページをお願いいたします。まず歳入についてでございます。

1の分担金及び負担金、これは両市の分賦金でございます。先ほどご説明申し上げたとおりでございます。

2、使用料及び手数料でございます。これは廃棄物処理手数料でございます。可燃ごみのクリーンプラザふじみへの持込手数料でございます。組合条例に基づいて、10キログラム当たり350円を徴収するものでございます。予算では1万1,200トンを見込んでおりましたが、想定以上の持ち込みごみの搬入がございましたので、1,700万円余の増収となりました。

3、国庫支出金でございます。焼却灰や飛灰、排ガス中の放射性セシウム濃度の測定に要する経費に対する補助金でございます。補助率は10分の10でございます。本資料34ページにあります歳出の放射能測定調査委託料と連動するものでございますが、排水につきましては補助対象ではないため、同額ではございません。

繰越金は飛ばさせていただきます。5、諸収入でございます。預金利子につきましては、預金利子が低利率の状況が続いておりまして、19万円余の減収となりました。

雑入のうち、有価物売却収入につきましては、先ほども申し上げましたとおり、ここ数年では最低の金額となりましたが、市場の低迷を受けて予算を厳しく見積もったことによりまして、予算額を2,640万円余上回ることができました。

その他の雑入でございますが、防災公園への売電を含む売電収入が予算額に比べ980万円余の増収となりました。これは、焼却量増加に伴う売電量の増加によるものでございます。また、有償入札拠出金及び再商品化合理化拠出金収入につきましては予算措置はございませんでしたが、容器包装リサイクル制度による再商品化への貢献度等に応じて、容器包装リサイクル協会から支払われるものでございまして、合わせて7,440万円余を収入いたしました。さらに、小金井市の可燃ごみを受け入れ、1億4,730万円余を収入いたしました。これらによりまして、諸収入全体では、予算額に比べ1億430万円余の増となったものでございます。

以上、歳入合計は19億5,693万3,963円、収入率は106.6%となりました。続きまして、歳出でございます。大きな不用額を中心にご説明申し上げます。

少し飛びまして29ページをお願いいたします。議会費につきましては、執行率95.1%でございまして、ほぼ例年どおりの執行となっております。

続きまして、30ページをお願いいたします。総務費につきましては、執行率92.7%となりました。目1、一般管理費につきましては、執行率95.2%で、ほぼ例年どおりとなっておりますが、一般職職員の人事異動等によりまして、人件費総体で266万円余の不用額が出ています。また、委託料で168万円余の不用額が出ていますが、これは広報作成委託料などで、契約差金が出たことによるものでございます。その他は経費節減等に努めた結果でございます。

右側、31ページは、目2、環境学習・地域交流推進費でございます。見学を含めた環境学習及び花いっぱいプロジェクト、ふじみまつり等に関する経費でございます。執行率は68.5%でございました。市民団体等の見学につきましては、必要最小限の人員で対応するなど、効率化を図るとともに、消耗品等の節減にも努めた結果、賃金及び需用費に不用額を生じたものでございます。

次に、32ページ以降が事業費でございます。全体の執行率は94.8%でございました。

初めに目1、ごみ処理場管理費でございます。これはリサイクルセンター及びクリーンプラザふじみ、両施設に共通する管理経費等について経理する費目でございます。執行率は96.4%でございました。給料から共済費までの人件費関係が執行額の65.8%、ほぼ3分の2を占めていますが、職員の人事異動等によりまして244万円余の不用額が生じました。また、庁用自動車の積極的活用を図るとともに、消耗品費の節減に努めた結果、

旅費や需用費で不用額を生じたものでございます。

続きまして、右側33ページをお願いいたします。目2、リサイクルセンター運営費でございます。執行率は92.6%でございました。業務に要する主たる経費は、実績欄の1、維持管理運営費の上から12段目でございますが、不燃ごみ処理業務委託料でございます。その決算額は3億5,910万円余で、執行額全体の70%を占めています。

また、消耗品費や修繕料、光熱水費など需用費の効率的な執行に努め、1,700万円余の不用額につなげることができました。これらに連動して、下から14段目のリサイクルセンター使用電力相当分委託料を節減することができました。また、工事請負費につきましては、1,190万円余の不用額が生じましたが、契約実績によるものでございまして、大きなものといましては、下から5段目の不燃ごみ系供給コンベヤ整備工事で570万円余の不用額が生じております。

次に、34ページをお願いいたします。目3、クリーンプラザふじみ運営費でございます。執行率は96.2%でございました。施設の維持管理運営業務の中心となる経費は、施設運営業務委託料と、歳入に連動しております売電収入相当額委託料の2つでございます。合わせて6億4,690万円余の決算額でございます。施設運営業務委託料につきましては、固定費及びごみ搬入量に単価を乗じて算出される変動費で構成されています。予算では7万7,300トンの搬入を見込んでおりましたが、実際には7万2,117トンとなりました。このため620万円余の不用額を生じております。また、エコセメント化施設の受け入れが順調だったために、薬剤処理等業務委託料及び資材化委託料、合わせて1,410万円余の不用額が生じたものでございます。加えて、全炉期間停止中の節電に努めた結果、電力事業者から購入する電気料で740万円余の不用額が生じております。

最後に35ページをお願いいたします。公債費でございます。先ほどご説明申し上げましたように、平成26年度借入分の元金償還が新たに始まりましたが、ほぼ予算どおりの執行となりました。

最後、予備費につきましては、充当した事業がなく未執行となりました。

以上、歳出合計につきましては17億3,274万8,504円、執行率94.4%となりました。

続きまして、決算年度中の財産でございますが、増減はございませんでしたので、後ほど財産に関する調書をごらんいただきたいと存じます。

なお、決算書及び事務報告書につきましては、内容が重複する部分がありますので、説

明を割愛させていただきたいと存じます。

説明は以上でございます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

○議長（鈴木宗貴君） それでは、監査委員の審査意見を求めます。奈良監査委員。

○監査委員（奈良正弘君） 監査委員の奈良でございます。平成29年度におけるふじみ衛生組合の決算審査につきましては、地方自治法第292条において準用する同法第233条第2項の規定に基づき、橋監査委員とともに審査をいたしましたので、私が代表して、その結果についてご報告いたします。

審査は、平成30年10月5日から10月24日まで行いました。審査の対象は、平成29年度ふじみ衛生組合歳入歳出決算、平成29年度財産の状況についてであります。

審査の手續といたしましては、管理者から提出されました歳入歳出決算書、歳入歳出決算事項別明細書、実質収支に関する調書及び財産に関する調書が地方自治法等関係法令に準拠して作成されているか、計数が正確であるか、予算の執行が適正かつ効率的になされているかなどに主眼を置き、それぞれの関係諸帳簿及び証拠書類との照合などを行いました。

審査の結果につきましては、審査に付された歳入歳出決算書、歳入歳出決算事項別明細書、実質収支に関する調書及び財産に関する調書は、法令に準拠して作成されており、計数に誤りはないものと認められました。

また、予算の執行はおおむね適正になされており、その概要は決算審査意見書に記載のとおりであります。

決算の概要につきましては、主に計数の説明等でありますので、本意見書をご高覧願うこととし、省略させていただきますが、ふじみ衛生組合が事業主体となっているごみ処理施設クリーンプラザふじみ並びにリサイクルセンターにつきましては、今後も引き続き環境と安全を重視し、経済性に配慮した施設の維持管理を要望しましたので、よろしくお願いいたします。

以上をもちまして、平成29年度決算審査結果の報告とさせていただきます。

○議長（鈴木宗貴君） ありがとうございます。

これより質疑に入ります。歳入歳出一括して質疑を求めたいと思います。これにご異議ありませんか。

（「異議なし」の声あり）

○議長（鈴木宗貴君） ご異議なしと認め、歳入歳出一括して質疑を求めます。質疑は

ございませんか。

嶋崎議員。

○8番（嶋崎英治君） 何点かお尋ねいたします。よろしくお願いいたします。

プラスチックごみの動向ですけれども、中国が全面的に輸入禁止に入るとのこと、それから、産業廃棄物というんでしょうか。事業者のほうのプラスチックの受け入れ先というんでしょうか、それがもう処理能力を超えているというような情報もあるんですが、このプラスチックごみが、もう一つは、海洋に行って、いろんな命に害を与えているという世界的な課題になっているということも、中国はそういうことで、国内で処理ということになっていくわけですが、やはり両市でやるのも限界があると思いますし、中国の受け入れがもうなくなるということで、国のほうの対応策というのは、あわせてあるんでしょうか。とりあえずその点についてお伺いいたします。

○議長（鈴木宗貴君） 萩原事務局長。

○事務局長（萩原正樹君） まず、産業廃棄物と一般廃棄物に分けたいと思うんですが、一般廃棄物につきましては、容器包装リサイクル協会ルートがありますので、現在、順調にリサイクルされているところでございます。

質問議員さんがおっしゃったとおり、問題は産業廃棄物でございまして、こちらは産業廃棄物処理業者の能力いっぱいございまして、今、受け入れを拒んでいるというような産業廃棄物業者もいらっしゃいます。したがって、決算年度におけますプラスチックの処理という視点では特に問題はないというふうに認識しておりますけれども、質問議員さんがおっしゃったとおり、産業廃棄物のプラスチックについては、今後、いろいろ検討していかなければいけないということになると思います。ただ、国のほうから、今、こういった流れで処理したいというような情報はいただいております。

○議長（鈴木宗貴君） 嶋崎議員。

○8番（嶋崎英治君） そうしますと、不法投棄というような心配も出てくると思うんですね。ふじみ衛生組合の範疇からはちょっと外れて、両市の対応になるかと思っておりますけれども、そのことを一つ懸念をします。

それから、もう一つ、抜本的な改正としては、やっぱり生産者が責任を持って回収をするという仕組み、容り法の改正が不可欠だというふうに思うんですね。なかなか進んでいないような状況があると思うんですが、ふじみ衛生組合としても容り法の抜本的な改正、その中でも、具体的に国のほうでも数値を設定をして容り法改正をしていく必要があるん

ではないかというふうに思うんですが、ふじみ衛生組合サイドでは、その点についてどのようにお考えでしょうか。

○議長（鈴木宗貴君） 清原管理者。

○管理者（清原慶子君） プラスチックにつきましては、当該年度も容器包装リサイクル法ルートを優先して取り組むということで、全量、容器包装リサイクルルートにしましたし、品質もAランクということで、私たちがまずは容器包装リサイクルルートを尊重して、その中で質の高い取り組みをしていくという実践が最優先です。

また、全国市長会でも、廃棄物のことにつきましては特別の委員会もつくって、稲城市の高橋市長が委員長として取り組んでおりまして、この多摩地域の実情を踏まえた問題提起もされています。

私たちとしては、繰り返しになりますが、当該年度も努力いたしました容器包装リサイクル法にのっとったルートの円滑な実践、それを事業者に向けて求めていくとともに、その実践を通して全国市長会等で国にも問題提起をしていくと、こういうこととしております。

○議長（鈴木宗貴君） 嶋崎議員。

○8番（嶋崎英治君） わかりました。全国市長会でも特別委員会を設けて、その対策に当たっているということ、理解いたしました。

もう一点、質問は、当該年度、労災事故というのはなかったのかどうかです。

○議長（鈴木宗貴君） 荻原事務局長。

○事務局長（荻原正樹君） おかげさまで、当該年度におきましては、労災事故はございませんでした。

○議長（鈴木宗貴君） 嶋崎議員、よろしいでしょうか。

○8番（嶋崎英治君） ありがとうございました。

○議長（鈴木宗貴君） ほかにございますか。

丸田議員。

○1番（丸田絵美君） 先ほど嶋崎議員から出てきた容器リサイクルルートにのっとってということなんですけれども、現在、一緒に処理をしております三鷹市と調布市のプラスチックの回収方法に違いがあるとお伺いしているんですけれども、ちょっとご説明いただけますか。

○議長（鈴木宗貴君） 荻原事務局長。

○事務局長（荻原正樹君）　　今、ふじみ衛生組合に持ち込まれておりますプラスチックですけれども、三鷹市については、汚れたプラスチックは可燃ごみで、調布市については、汚れたプラスチックは不燃ごみということで、若干の違いがございます。

○議長（鈴木宗貴君）　　丸田議員。

○1番（丸田絵美君）　　1つのところで一緒に回収をしているのに、違いがあるということに関してはどのようにお考えでしょうか。

○議長（鈴木宗貴君）　　清原管理者。

○管理者（清原慶子君）　　三鷹市、調布市は、このふじみ衛生組合の取り組みを進める中で、市長同士で、ごみの問題については可能な限り両市で同様な取り組みをしていくということで心合わせをしているところでございます。ただ、自治体でございますので、自治体としてのそれぞれの取り組み、現時点では、今、事務局長が答弁いたしましたような相違がございます。ただ、このことにつきまして、三鷹市としても、ごみ減量等推進員の市民の皆様のご意見を最大限尊重して、汚れたプラスチックについては可燃ごみでというふうにした経過がございます。同じように、調布市におかれても、同様の組織があり、やはり三鷹市の取り組みについての情報も届いていることから、市民の皆様、そして担当の部門でご議論があるやに聞いております。

この問題だけではなくて、さまざまな取り組み、一部事務組合として連携し、そして、効率的かつ適正に進めていくために、これからも両市、よりよく現状を共有しながら、対応をできる限り同じ方向で進めていくように努力をしていきたいと考えております。

○議長（鈴木宗貴君）　　丸田議員。

○1番（丸田絵美君）　　ありがとうございます。ニュアンスは伝わりました。

調布においても、来年度からですかね、そういう取り組みがあるというふうな話も、ちょっとお伺いしておりますので、先ほど管理者がおっしゃっていましたが、可能な限り同様な取り組みでということで、現状をしっかりと、両市、こういうことだよということをご理解いただきたいなと思いますので、よろしく願いいたします。

とても細かいことなんですけれども、先ほど嶋崎委員もおっしゃっていましたが、今、アメリカではプラスチックのストローをなくして紙のストローにするみたいな取り組みがあります。調布市では、ストローはプラスチックではなく、燃えないごみで出しているんです。三鷹市ではプラスチックで出しているということで、やっぱりその辺にも違いがあって、何でかと聞いたら、容器リサイクルルートにのっとってということですので、

プラスチック製品ではあるけれども、容り法上のプラスチックというふうになっていないので、ストローは不燃だよというふうに言われたので、その辺も市民にわかりやすく、きちんとやっていただきたいなと思います。調布はそういうリサイクルをしているんだということを、三鷹の方にもご理解いただきたいなと思いますので、よろしく願いいたします。

○議長（鈴木宗貴君） ほかにございますか。よろしいでしょうか。

以上で質疑を打ち切ります。

これより討論に入りますが、討論はありませんか。

（「なし」の声あり）

○議長（鈴木宗貴君） 以上で討論を打ち切ります。

これより採決いたします。議案第5号、平成29年度ふじみ衛生組合歳入歳出決算の認定について、原案のとおり認定することに賛成の方の挙手を求めます。

（賛成者挙手）

○議長（鈴木宗貴君） ありがとうございます。満場一致と認めます。よって、本案は原案のとおり認定されました。

以上で本日の日程は全て終了いたしました。それでは、これで会議を閉じます。

これにて平成30年第4回ふじみ衛生組合議会定例会を閉会いたします。本日はお疲れさまでした。

午前11時25分閉会

以上会議の顛末を書き、その相違ない
ことを証するためここに署名する。

平成30年11月19日

ふじみ衛生組合議会議長

鈴木宗貴

ふじみ衛生組合議員4番

渡辺進二郎

ふじみ衛生組合議員10番

森 徹